

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

側弯症装具治療での装着時間の確認において温度ロガーと自己申告では違いがあるか

### 2. 研究責任者(当院)

所属: 聖隷佐倉市民病院  
氏名: 木村 弘美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名: 該当なし  
代表名: 該当なし

### 3. 分担研究者

所属: 聖隷佐倉市民病院  
氏名: 大崎 美奈子、中山 敬太、小谷 俊明、佐久間 毅

### 4. 研究対象者

2019年 7月 1日 ~ 2020年 5月 31日の間に、聖隷佐倉市民病院において  
[新規で側弯症装具治療]を受けた、又は受ける方で、且つ同意書に署名された方。

### 5. 研究の必要性

特発性側弯症において、Cobb角が20度までは経過観察となるが、20度を超えると装具治療が必要になる。基本入浴時間以外の装着を説明するが、装着時間は本人、保護者からの聞き取りであり、信頼性があるとは判断しにくかった。そこで、装具治療をおこなう患児の装具の腹部にボタン電池式の温度感知器である温度ロガーを装着し30分ごとに自動で温度測定をする。30度以上を装着していると判断し、計測をおこなうことで温度ロガーは正確に装具装着時間を把握するためのツールとして有効性があると報告した。側弯症装具の腹部に設置した温度ロガーにより30分ごとに計測し、30度以上を装具装着と判断することで1日の装着時間を正確に把握できることがわかった。併せて、これまで聞き取りしていた装着時間を、患児にタイム表を渡し、1日の装具を外した理由と時間を記入してもらった。1ヶ月後の外来受診に温度ロガーとタイム表を回収し、比較検討することで装着時間に違いがあるか調査することである。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

装具装着時間の確認は口頭であり、正確な時間把握が困難であった。温度ロガーの活用により患児の装具装着時間が正確に把握でき、治療効果の判断や心理的影響との関連分析に役立つ。看護として患児、保護者に対し、装具治療時の身体的、精神的な関わりの適切な支援に繋がると考える。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号: 043-486-1155  
担当者氏名: 木村 弘美  
対応時間: 平日 8:30~16:30

共同研究において専用窓口がある場合

該当なし

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。お問合せは、本研究に参加された方と研究関係者のみで、  
その他の方へのご対応はできませんので、予めご了承願います。